

# シュッコンカスミソウのつぼみ切り技術

## 1. はじめに

切り花品質を向上させる方法の一つに、つぼみ切り技術があります。つぼみ切り技術とは、通常の収穫適期よりも早い段階で収穫した切り花に、開花室において光、温度、糖などを与え、出荷適期まで催花させた後、出荷する技術のことです。

シュッコンカスミソウ(以下、カスミソウ)では、つぼみ切り技術により、高温期における萎凋花の発生回避や低温期における開花揃いの向上などの効果が得られると考えられます。そこで、カスミソウのつぼみ切り技術における収穫から出荷までの工程を検討したので紹介します(図1)。

## 2. カスミソウにおけるつぼみ切り技術開発

### (1) つぼみ切りに適した開花ステージ

カスミソウは通常では第3小花が開花した時点で収穫しますが、つぼみ切りを行う際には、第2小花が開花した時点で収穫すればよいことがわかりました。第2小花開花時より早い段階で収穫した場合は、切り花の花持ち期間が短くなりました。

### (2) 開花室に適した光条件

開花室での催花には、PPFD $10\mu\text{mol}\cdot\text{m}^{-2}\cdot\text{s}^{-1}$ (40W蛍光灯から約70cmの距離の明るさ程

度)以上の光強度が必要でした。

### (3) 開花室での処理期間

つぼみ切りした切り花が、開花室において出荷適期に達するまでに要する日数は、2~3日(室温 $20^{\circ}\text{C}$ )となりました。

### (4) 開花液のショ糖濃度

開花液のショ糖濃度は2~4%が適していました。また、カスミソウ切り花では、ショ糖の供給が絶たれると開花小花中の糖含量が減少し、つぼみ小花の開花が進行せず、花持ち期間も短縮することから、出荷時の輸送中にもショ糖を与えるとよいことがわかりました。しかし、輸送溶液に4%のショ糖溶液を用いると、満開小花の開花様相が通常と異なるため、輸送溶液のショ糖濃度は、2%程度とすることが必要と考えられました。

## 3. まとめ

つぼみ切り技術の効果については、小花同士が絡まないで収穫作業が楽になった、萎凋小花の除去作業が不要になった等の意見が聞かれました。

本県は全国に先駆け開花室の設置が進んでおり、今回検討した技術が広く活用されていくものと考えています。(園芸部 小谷真主)

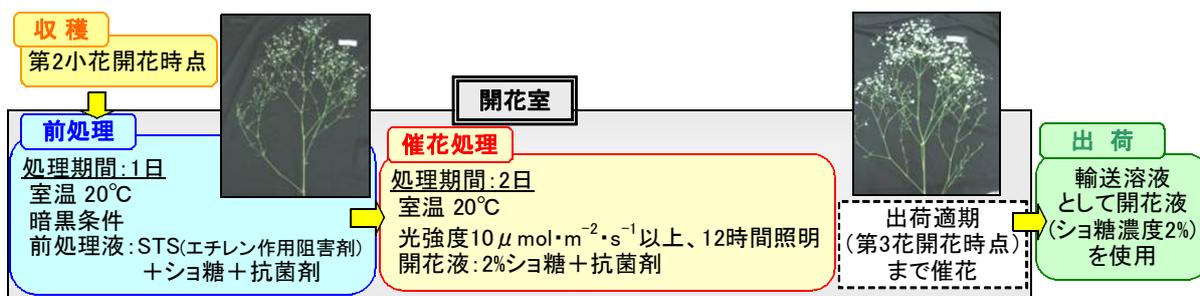


図1 カスミソウにおけるつぼみ切りの作業工程

## お知らせ

### 人事異動 (平成21年4月1日付)

転入 新職名	氏名	旧所属名
所長	神藤 宏	暖地園芸センター副所長
副所長	西谷 年生	有田振興局産業振興部
園芸部長	辻 和良	果樹園芸課
園芸部 主査研究員	島 浩二	農業試験場
転出 旧職名	氏名	新所属名
所長	小椋 一生	退職
育種部 現業技能員	乾風 温子	退職
園芸部 主査研究員	宮前 治加	農業試験場
育種部 副主査研究員	古屋 拳幸	うめ研究所

### 和歌山県農林水産総合技術センター 暖地園芸センターニュース No. 35

平成21年7月20日発行

編集・発行 和歌山県農林水産総合技術センター  
暖地園芸センター

〒644-0024 和歌山県御坊市塩屋町南塩屋724

TEL 0738-23-4005

FAX 0738-22-6903

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/gaiyou/003/003.htm>  
印刷所

(この印刷物は再生紙を使用しています)

